

生涯学習推進懇談会(第40回)出席者名簿

開催日:平成21年11月16日

役 職	氏 名	公職・所属等
座 長	三 輪 建 二	お茶の水女子大学教授
副座長	新 関 隆	東京家政大学教授
委 員	伊 東 重 雄	区立小学校 PTA 連合会 会計監査
委 員	植 田 康 嗣	区立中学校 PTA 連合会 会長
委 員	茂 野 善 之	青少年健全育成前野地区委員会 会長
委 員	白 鳥 円 啓	成増小学校支援地域本部地域コーディネーター
委 員	田 上 彦 一	区民農園農芸指導員の会 会長
委 員	廣 瀬 カズ子	ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし理事
委 員	速 水 敏 一	新河岸小学校 校長
委 員	塩 野 賢 一	高島第三中学校 校長
委 員	児 玉 周	区民公募委員
委 員	與 芝 和 子	区民公募委員
委 員	茂 木 良 一	教育委員会事務局次長

事務局	有 馬 潤	教育委員会事務局生涯学習課長
-----	-------	----------------

板橋区生涯学習推進懇談会（第40回）記録

平成21年11月16日（月）午後1時～3時

板橋区役所8階 教育委員会室

出席者 別紙名簿のとおり

1 委嘱状交付

区長より、各委員に委嘱状を交付。

2 区長あいさつ

【坂本区長】

大変お忙しいところ、この生涯学習推進懇談会にご出席をいただき感謝している。

また、このたびは生涯学習推進懇談会の委員として、2年間にわたり板橋区の生涯学習の今後の方向性につき、よろしくご検討をお願いしたい。

本区では、平成20年7月に「いたばしの教育ビジョン」を策定し、新たな教育課題に対応して、子どもたちが生き生き学び、また豊かな将来を築いていくことにつながるような教育の実現を目指している。

この「教育ビジョン」については、「いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！地域が支える板橋の教育」ということを標榜し、その実現に向け本年3月に「いたばし学び支援プラン」を策定して、各施策の推進を現在進めているところである。

子どもたちは成長過程において、多くの方と出会い、さまざまな考え方に触れ、いろんな体験を通じて感動や学ぶ楽しさというものを実感することが大変重要である。そのためには、子どもたちが学ぶ多くの場面に、地域の皆様方に参画していただくことが重要度を増している。このことが今後の教育振興の大きな課題であり、教育ビジョンの目指す「地域が支える板橋の教育」につながっていくことと考えている。

こうした課題については、生涯学習に関わることが大変多くあり、子どもたちの学びを豊かにするためには、大人にとっても豊かな学びが重要で、あらゆる機会に行われている区民の皆様方の学習が、よりよい形で循環をしながら地域の教育力を高めていけるような仕組みづくりが大変重要であると考えている。

この懇談会においては、今後板橋区が行うべき学習支援のあり方を検討していただき、ご意見を賜り、区の生涯学習プランに反映をし、確実に成果を上げたいと考えている。

委員の皆様には、最後までよろしくご協力をお願いしたい。

3 議 事

（1）座長・副座長の選出

【生涯学習課長】

初めに、第5条の第1項により、座長と副座長の選出をお願いしたい。選出については、委員の皆様方の互選をお願いすることとなっているがいかがか。

本日、初めての顔合わせという状況でもあるので、大変僭越ではあるが、よろしければ事務局よ

り提案させていただきたいかがか。

(「はい、結構です」と呼ぶ者あり)

【生涯学習課長】

では事務局より提案させていただく。

座長には、お茶の水女子大学教授でいらっしゃる三輪建二先生にお願いしたいと考えている。また、副座長には東京家政大学教授の新関隆先生にお願いしたいと考え、ご提案申し上げます。

皆様、いかがか。

(「結構です」と呼ぶ者あり)

【生涯学習課長】

それでは、三輪先生に座長を、新関先生に副座長をお引き受けいただきたい。

早速ではあるが、三輪先生、新関先生よりごあいさつをお願いしたい。

【三輪座長】

大学では社会教育、生涯学習を担当している。板橋区との関係は数年前に、東京都の生涯学習審議会の委員をしていたときに、学校・家庭・地域の支援のモデル事業ということでこちらのほうで委員をさせていただいた。その関係もあって今回この懇談会に喜んで参加させていただいた。学校・家庭・地域の連携ということも研究しており、皆さんの活動をますます活性化できるように議事進行を行いたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

【新関副座長】

所属は家政学部の環境教育学科というところだが、(大学の)生涯学習センターの幹事もしている。

具体的な活動としては、主に地域の方、特にこちらにいらっしゃる新河岸小の速水先生にもお世話になり、学生の教育アドバイザーなどの活動を通して、特に大学生の教員養成においては板橋区の皆様方に非常にお世話になっている。

このようなかたちで少しずつ情報関係を中心にして、生涯学習の場がかかわる機会がふえてまいり、そのようなこともあって、こちらのほうにお呼びいただいたのではと思っている。今後ともよろしくをお願いしたい。

【三輪座長】

今日はこのメンバーでの初顔合わせであり、ぜひ皆様からも自己紹介をお願いしたい。

まず、所属とお名前、それから日ごろの活動内容などをお話いただく以外にも、この懇談会の委員を引き受けるに当たっての思いや意気込みなどがあったらお聞かせ願いたい。

【速水委員】

新河岸小学校の校長である。日ごろ学校にはいろいろな方にお世話いただいている。

今、新関先生からもお話があったように、家政大の学生さんに本校に来ていただき、パソコンなどの面でご支援いただいている。廣瀬委員にも本校に来てご指導をいただいている。

学校の関係でお話ができればと思っており、よろしくをお願いしたい。

【塩野委員】

中学校の校長会のほうから代表として来ている。今現在は高島三中の校長をしている。

多分私がこの委員に選ばれたのは、板橋生まれで、板橋で25年ほど中学校に勤めており、そういう関係で選ばれたのではないかと思っている。よろしくをお願いしたい。

【伊東委員】

区立小学校PTA連合会役員をやっている。北野小学校のPTAの会長を2年ほどやらせていただいている。この会にあたっては、子どもたちのためにどういった力になれるかという思いでやってき

た。頑張りたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

【植田委員】

板橋区中学校PTA連合会の代表である。私もPTAに携わるようになって、ふだんお祭りや地域の行事などに行くことが非常に多なつた。地域と学校という関係がこれからいろんなかたちでどう取り組んでいけるのかということも考へている。私も頑張らせていただくのでよろしくお願ひしたい。

【與芝委員】

私は板橋に住むようになって15年になる。これまで区には余り携わってなかつたが、昨年、板橋区の子育てサポーター講習の3級と2級を受けて活動している。

月に大体4～5人のお子さんを、児童のおうち、あるいは自宅でお預かりするという活動をしており、とても可愛くて、楽しく過ごしている。

今月から学童保育でも週に2日働き始め、いろいろ感ずるところがあつて、何か自分にできないことがないかということで、こちらに応募させていただいた。よろしくお願ひしたい。

【児玉委員】

名簿の肩書は創価大学通信教育部非常勤インストラクターということで、大学の通信教育で社会教育を学ぶ学生のサポートをやらせていただいているが、仕事は一般の企業に勤めている。

8年ぐらい前から、板橋でさまざまな大人の学びの活動に参加している。板橋はとても広がりもあり、さまざまな団体がすばらしい学習活動をしていることを本当に実感し、その力を何とか今、学校の先生たちが大変お忙しい状況の中で、子どもたちとなかなか向き合える時間がないということで、その部分を地域の大人の方たちが自分たちの学習を生かしてしっかりと応援できるような、そういうところでお役に立てればと思つている。よろしくお願ひしたい。

【茂木委員】

教育委員会事務局次長であり、この会の中では、役所の職員としての立場で役割を果たさなくてはいけないと思つている。

皆様には本日、色刷りで「いたばし学び支援プラン」というのをお配りしたが、今、板橋区はさまざまな教育関係の施策をやっており、その中で少なくとも学校教育については、やはり地域の皆様と結びつきがなければとてもやっていけないという状況であると思つている。そうしたことについては、役人だけが考へたのでは形だけになってしまうのではないかと思つている。地域の皆さんの生の声を生かして、ぜひ「地域が支える板橋の教育」というようなものを目指していきたいと思つている。

皆さんご多忙とは思つがよろしくお願ひしたい。

【廣瀬委員】

NPO法人の事務局をしている。私どもの団体は、学習によって地域のいろいろな課題をクリアしていこうということで、「ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし」という長い名前ができた。略称としては「学習推進センター」である。

平成13年度から、学校の総合的な学習の支援を行っている。平成14年度からは、先ほど三輪先生がおっしゃったように、東京都で5カ所のモデル地域の1つに板橋が手を挙げて、「地域教育サポートネット事業」ということで三輪先生とご一緒させていただいた。

私どもは福祉教育というところで、障がい者を伴って地域に、そして学校に行くという事業をモットーにやっているが、最近では高齢者の平和教育、戦争体験の話や、それから絵本を使った平和教育というところにも入っている。そういうところで本当にこつこつと地域が学校に入るということをやっていたが、「いたばし学び支援プラン」の中で、「地域が支える板橋の教育」ということが打ち出され、それなら私たちが個々に思いを学校につなぐのではなくて、生涯学習・社会教育というところ

で、私たちも教育してほしいという思いがあり、今回委員として少し具申ができればと思っている。よろしくお願ひしたい。

【白鳥委員】

成増小学校支援地域本部の地域コーディネーターをしている。

現状何をやっているかという、学校にボランティアの方に入っていて、先生方が、忙しいところの一部をボランティアの方々が担うことで、子どもたちと先生がどう向き合ってもらえるか、その時間をふやしてあげるというような事業をさせていただいている。

この事業に関しては昨年度から開始し、昨年度、私は成増小学校のPTA会長であったが、そのときから始め、今年は、PTA会長は終わり、この地域本部のほうで、地域コーディネーターのみさせていただいている。

成増小学校に関しては、「いきいき寺子屋」も含めて、延べ140名のボランティアが活動している。その中でも地域の方々が中心となって動いており、そのあたりに関してお話ができればいいかと考えている。

それから現状、学校の中で動くというのは、実は地域の方々の生涯学習の発表の場、成果発表の場でもありと考えており、そういう部分で学校と生涯学習をどうつなげていくかというところにとっても興味を持っている。いろいろとお話をさせていただき、それからここで勉強したことを逆に現場に持ち込んでみたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【田上委員】

区民農園指導員会の会長をしている。

区民農園も今年度でちょうど40年を迎えた。今まで過去40年間のうちにいろんなこともあったが、区民農園には親子で参加するのが一番の魅力であり、子どもたちも本当に自分でお父さんとお母さんをつくってみて、あっ、こういうふうにできるんだ、農薬を使わなくてもこういうものができるんだということを、体で覚えていくことが私は大事だと思って、今までやってきた。

そのほかに、昭和36年に板橋区内では初めて田んぼをつくった。これは水車公園の中にある。本当は区内の小学生を皆さんお呼びできればありがたいことだが、何しろ面積が少ないので、今は徳丸地域内の3校と、幼稚園、保育園が5つ来て、田植えや稲刈りを、すべて子どもたちに任せている。2年生を対象としてやっているが、体で覚えるというのは大事なことだと感じている。

それからもう一つ、私は徳丸で生まれ、紅梅小学校のそばに住んでいるが、平成6年に、自分のそばの畑にお茶畑をつくって、狭山の茶業試験場から苗を譲ってもらい、約600本を植えた。それが平成9年にお茶摘みができるようになり、今現在は私どもの地域の中で5校の小学校の5年生がお茶摘みをし、それを所沢の工場に製茶をお願いして、子どもが摘んだお茶を子どもたちに飲んでもらうというようなことをやっている。

板橋の中でも農地はわずかとなってしまった。そんな中でも今、自分で考えているのは、廃校になっている学校もあるので、そういう校庭の一部を何とか利用できるようなことも相談したいと思っている。

【茂野委員】

前野青健の会長をしている。私は板橋区の青健連合会から代表としてこの会に参加している。私も板橋で生まれて板橋で育ち、30そこそこから少年野球チームの監督を引き受けて今でもやっているが、そんな中で地域の子子どもたちがいかに健全に育つかというところに非常に興味もあり、子どもたちがこのまに生まれてよかったなと思えるような生涯教育ができればいいと思っている。この

懇談会を通じてそういったところを皆さんのご意見をいただきながらやっていきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

(2) 説明及び検討

議 題

① 生涯学習推進懇談会の概要について

【三輪座長】

生涯学習推進懇談会の概要について事務局よりご説明願ひたい。

【生涯学習課長】

資料の3をご覧いただきたい。

1番の設置目的。これは「板橋区生涯学習推進懇談会設置要綱」というものがあり、それに基づき平成2年に設置され、学識経験者をはじめ地域団体等の代表者、公募による区民の方々のご参加により、区民の生涯学習についての要望や必要な施策等についてご意見を伺い、その行政施策に反映することを目的としている。

2番の委員については、区長より委嘱された方々が2年の任期でご審議いただくということになっている。学識経験者、地域団体の代表者、公募の方、区職員で構成されている。

3番、検討課題と報告であるが、そのときどきの区の生涯学習推進にかかわる課題を取り上げ、討議、検討を行い、その結果を報告書としてまとめ、区長へ提出している。これまでの検討報告であるが、資料3に①番から⑤番まで記載がされている。学校施設のあり方や、IT学習と生涯学習施策のあり方等につきまして、それぞれ報告書をまとめ区長提出いただいているところである。最後⑤番のところ「多様な世代が主体的に学び合うために」、これが平成19年3月に報告がされており、それから約2年間、この懇談会が休止の状態であった。

それは、先ほど来、ご案内のとおり、「いたばしの教育ビジョン」、それから「学び支援プラン」、板橋区の教育を今後どういう方向に進めていくか、その基本となるものを作成する間、この懇談会は休止という状況であった。昨年度この「ビジョン」「プラン」ができ上がり、改めて今年度から懇談会を再開することとなった。

また、この会議は公開ということで、会議録の公表も行うことになっている。

【三輪座長】

ただいまの説明につき、ご質問ご意見があればお出し願ひたい。

【三輪座長】

1点だけ私のほうから、区民の生涯学習という場合のその生涯学習の範囲というのは、大人だけではなくて、今日では、子どもの生涯学習というか、あるいは学校教育も含めて広くとらえる傾向があると思うが、そういう理解でよろしいか。

【生涯学習課長】

はい、そのとおり。

② 今期の検討課題について

【三輪座長】

2番目の議事は「今期の検討課題」ということで、これについてもまず事務局から説明をお願ひしたい。

【生涯学習課長】

今回、区として皆様からご意見を伺ってまいりたいと考えているテーマ・検討課題について説明をさせていただきます。

資料4をご覧願いたい。検討テーマとしては、「地域が支える板橋の教育」を振興するための方策について というものと考えている。これを選んだ理由は、板橋区の教育委員会では「いたばしの教育ビジョン」、それから「学び支援プラン」を策定し、その中で区の目指す基本的方向をあらわすベースとして、「いきいき子ども！あたたか家族！はつらつ先生！地域が支える板橋の教育」ということを打ち出している。

このフレーズの中から「地域が支える板橋の教育」という表現を使い、地域の方々のさまざまな活動や力を発揮していただき、教育力を高めていくことができるよう、それに必要な方策につき皆様からご意見を頂戴し、今後の生涯学習推進の取り組みに反映させてまいりたいということで選んだところである。

今回の「教育ビジョン」「学び支援プラン」では、いずれも板橋の教育の大きな課題としての学校教育に焦点が当てられている。そして家庭・学校・地域がそれぞれの教育力の向上を図ると同時に、教育委員会も含めてそれぞれの役割を認識し、連携しなから子どもたちの成長を支えていくことを目指そうというものである。

「教育ビジョン」では、地域の皆様が子どもたちの成長を支える上で、今以上に力を発揮していただきたいという期待を込めて、「地域の子どもは地域が育てるとの意識で、子どもの育ちを支えます」ということを柱の一つと位置づけている。

これについては、机上配布した色刷りのものが「学び支援プラン」の概要であり、その裏面に、「ビジョン」と「プラン」の体系が掲載されている。「ビジョン」には【柱その1】から【柱その5】まで、柱が5つある。

「地域の子どもは地域が育てるとの意識で子どもの育ちを支えます」というのは、この柱の4番である。「ビジョン」は広範囲なものであるが、この懇談会で集中的にご審議いただくのはこの柱の4番目のあたりが中心になる。

これまでも青少年の健全育成や学校を拠点とする社会教育事業などにおいては、区内全域で多くの区民の方々にご協力をいただいているところである。そのことも踏まえた上で、「学び支援プラン」では地域の教育力の向上を図り、家庭や学校教育を支援するという方向性を打ち出し、推進していくことを目指している。生涯学習を推進する上でも区民の皆様が、さまざまな場面で学び合うことを支援し、地域社会に豊かなつながりが生まれていくことが重要だと考えている。

そこで、今期のご検討をお願いする中で、地域の皆様が、子どもたちの学びの場である学校を支援し、学校とともにお子さんたちの学びを充実させていくことにかかわっていただけるような取り組みや方策について、ご意見を頂戴したいと考えている。そうした学校支援を進めていこうとする中で、課題と思われることを3点ほど挙げさせていただいた。

1点目は、学校に必要な支援と地域人材とをつないでいくための方策である。子どもたちの学習をよりよく進めていくために、学校の先生方はご苦労されているが、そうした先生方の思いと地域の方々の思いとがうまく結びつくことで、学校支援活動の効果が高まるものと思われる。現在もそれぞれのお立場で活動されている方もおられるので、皆様からご意見や課題などをお出しいただく中から、今後必要となる取り組みにつきご検討を願いたいと思っている。

2点目は、子どもたちの学びの充実とそれを支える大人たちの学びあいを支援する仕組みづくりということである。子どもたちの学習支援を進める上では、大人の側にも学びが必要ではないかと考え

ている。「学び支援プラン」の示す方向性の中でも、区民の学びあい教えあう活動の推進ということが挙げられているが、地域の皆様が子どもたちの学習支援活動にかかわっていかれ、そのことがさらに大人にとっても学びあう機会につながり、継続的な支援活動や支援する方々のネットワークへと広がりが期待できるような方策についても、ご意見を伺いたいと考えている。

3点目は、保護者を含む地域の皆様方が学校を支援し、子どもたちの学びの充実に取り組んでいただくために、今後、区にはどのようなことが求められていくのかということについても、ぜひご意見をお出しいただきたいと思っている。

資料4の2枚目をご覧ください。今期の検討課題について、「ビジョン」それから「プラン」等もあわせて概念図で示している。真ん中の図で示してあるところが「ビジョン」で、これは先ほど申し上げた柱である。これを具体化したものが「学び支援プラン」であり、この5つの柱のうちの4つ目、「地域は地域の子どもは地域が育てるとの意識で子どもの育ちを支えます」と、この部分を中心にやっていくとどうかと考えている。

この部分を取り出すと、一番右のほうに点線の枠で囲まれたところに記載のとおりである。ローマ数字のⅠ番からⅣ番まであり、その中でも特に中心となってくるのはこの4つのうちのローマ数字のⅡ番、「地域の教育力向上を図り、家庭や学校教育を支援します」というこのあたりではないかと。このあたりから今回、先ほども申し上げました3つの課題が抽出され、それを検討していただき、その検討からの具体的な提言をこのプランのほうに戻して、区の施策に生かしていきたいと考えているところである。

【三輪座長】

ただいまの事務局からの説明について、ご意見がおありならばどうぞ。

確認だが、今日はこの3つの課題全部を議論し尽くすというよりは、これから検討していくという理解でよろしいか。

【生涯学習課長】

はい。

【三輪座長】

どうぞご発言をお願いしたい。

せっくなので、人材がうまくつながっている例とか、学校教育と社会教育とうまく連携している例、あるいは今後の注文でも結構なのでいかがか。

特にないということでもよろしいか。

【生涯学習課長】

もしよければ、あとの意見交換のところ、これまでの課題なども全部含め、ご自由にご意見をいただければ幸いである。

【三輪座長】

ざっくりばらんな言い方になるが、子どもたちと地域との交流で、子どもたちの生き生きとした活発な姿をということで考えたい。そのためには私たち大人も活発な意見交換をし、それが子どもたちの前に示せるようにできたらいいと思うので、最後の意見交換のところでもよろしくお願ひしたい。

それでは、今期の検討テーマについては、「地域が支える板橋の教育」を振興するための方策として、地域の方々による学校支援を中心に子どもたちの学びを充実させていくための方策について、意見交換をしていくということでご了承いただけるか。

ご意見がないようであれば、こういう方向だとさせていただきたい。

③今後のスケジュールについて

【三輪座長】

それでは、検討課題が決まったところで、次の議題に移り、「今後の検討スケジュールについて」事務局から説明をお願いしたい。

【生涯学習課長】

資料の5をご覧願いたい。

本日が今期1回目の会合だが、2回目を12月21日、月曜日に開催したく予定している。3回目以降については、具体的な日時は決まっていないが、来年の22年7月まで課題についてご検討いただき、その時点での中間のまとめをお願いしたいと考えている。「中間のまとめ」については、9月に区の広報、ホームページなどで公表して、パブリックコメントとして広く区民の皆様からのご意見を頂戴する機会を設けてまいりたいと考えている。また、この時期にあわせて教育委員会、区議会からもご意見をいただく機会を設けたいと考えている。

その後、パブリックコメントなどでお寄せいただいたご意見なども踏まえ、さらに委員の皆様にご検討をお願いし、最終的には22年度末、平成23年3月に検討結果を区長にご報告いただくという予定でお進め願いたいと考えているところである。

【三輪座長】

ただいまの説明に対してご質問などがあればどうぞ。

【兎玉委員】

中間まとめにつき、パブリックコメントを実施するとのことだが、先に「いたばし学び支援プラン」の中間まとめが発表されたときに、この支援プランは、全部で百数十ページあるという量の中で、パブリックコメントの募集というのがわずか1週間ほどであった。ここの期間が充分ないと、個人だけではなくて今回、特に「地域が支える板橋の教育」ということであれば、各地域の学習団体やボランティア団体などの皆さんが、各団体の中で意見をまとめて、パブリックコメントへ出す、そういうパブリックコメントであることが非常に大事だと思うので、その期間をぜひ充分にいただければと考える。

【三輪座長】

以上についていかがか。

【生涯学習課長】

はい。できるだけそのようにスケジューリングをしたいと思っている。

【三輪座長】

ほかにはいかがか。

中間まとめの作成などは、またこの進め方等は、おいおい議論していくことでよろしいか。

【生涯学習課長】

はい。

【三輪座長】

ほかには特にないようなので、平成23年3月をめどにこの懇談会としての意見をまとめていくということで検討を進めてまいりたいので、よろしくご協力をお願いしたい。

(3) 意見交換

【三輪座長】

このあとは、意見交換ということで、皆様からお話を伺えればと思う。

今期は、地域の大人が子どもたちの学びを支援することを考えていくが、委員の中には、学校の先生、保護者の方、既に何らかの形で学校支援活動にかかわっている方がおられる。子どもたちが先生以外の地域の人たちとかかわりながら学んでいくことのよい点や、ご経験の中から、あるいは今後の期待なども含めてお聞かせいただければと思う。

それから、正直にうまくいかなかったことや、注意しなければいけないことなど、日ごろお感じになっていることも率直にお聞かせいただければと思う。今後の検討を進める際の大事なヒントになるので、ぜひよろしくお願ひしたい。

【植田委員】

事務局に質問だが、「地域が支える板橋の教育」ということで、この「学び支援プラン」には、いわゆる学校支援地域本部があるが、その支援本部事業とはまた別枠でこの会議での提言という形なのか。それとも積極的に新たに学校支援地域本部をつくっていこうという話なのか。それとはどういうふうに分けていくのか、一緒なのかということをお聞きしたいのだが。

【生涯学習課長】

もちろん地域の方々のお力で学校を支えていこうということなので、今の学校支援地域本部の学校の運営を、いかに地域の人材で支えていこうかということにもかかっていると思う。「学び支援プラン」で言うと、先ほど、柱の4の、ローマ数字のⅡあたりが中心になってくるのではないかなというお話をした。このローマ数字のⅠからⅣまで全部関係してくると思うが、とりあえずこのⅡあたりが中心なのかなと。学校支援地域本部はローマ数字のⅢのあたりに関連するものであるが、議論の中でその学校支援地域本部にも生かせるようないろんな提言が出てくれば、もちろんその支援本部の中にも取り込んでいけるのではないかとは思っている。

最初の段階で完全に切り分け、役割分担をしているというわけではない。ある程度幅を持ったものだというふうに考えている。ただ、ある程度中心というものを持っていたほうがいい。全部議論するのでは、なかなか広範なものになってしまい、来年7月までに中間のまとめもなかなかまとまりきらないようなものになってしまうといけないので、ある程度中心を定めつつ皆様の議論の中で、支援本部のほうにも生かされるようなものが出てくれば、それは生かしていくという立場である。

【茂野委員】

地域というのはいろいろある。町会があり、青健があり、また本当にいろいろな団体がある。板橋区の小学校区だけでも、今言った学校支援地域本部がある。また「放課後子ども教室」があり、それから「いきいき寺子屋事業」というのがある。それぞれが独自にいろんなことをやっている。

それで町会にも青健にもいっぱい人材がいるのだが、先ほど出たように、横のつながり、連携というのがない。だから、もう少し連携を深めていかないと。今、植田委員が言われたとおり、小学校区でやっているところはすごくうまくやってやるのかもしれないが、そういうものがないところは全く地域がかかわらないとかということになるので、やっぱり板橋区がかかわるのだとしたら、1つの方向性をきちっと決めて、地域支援本部でまとめて、その下に系列的にいろんなものをネットワークとしていけるような、そういうきちっとした組織をつくらないとなかなかうまくいかないと思う。独自には非常にいいことをやっけていても、そこら辺が課題かなと思う。

【三輪座長】

ネットワークの必要性ということだと思うが、いかがか。

【白鳥委員】

なぜ、成増小学校が学校支援地域本部事業に、一番最初に手を挙げたかというのと、実は寺子屋事業、それから放課後事業など、いろんなボランティア活動に関して、全部合わせると延べ140人ほどの方々が学校の中に入って来てやっている。それをどうにかまとめなければいけないし、もう土壌ができていたのでやりやすそうだなと。逆に言うとそれをどうにかしっかりと一元化したいということもあったので、支援本部を立ち上げた。

横のかかわり合いについては、例えば僕も寺子屋の事務局に入っているし、それからほかのところでも、例えば児童館にも参加しており、そういうことを一人で何か所も入っていることによって、ある意味ネットワークをつくっているという状況だが、ただそれを今後、一人でやっていくとは思えない。今、私は地域コーディネーターといった肩書だが、どうにか仕組みづくりというか、ちゃんとしたネットワークをつくっていくことが必要だと思っている。

あと、子どもたちという言い方でいくと、意外と微妙な部分があり、地域本部の場合は、先生を支援するということが前提条件である。すごく微妙な言い方だが、なぜかという文科省からの流れで、学校支援というのは、先生の支援であると。実は先生を支援することによって、間接的に子どもたちを支援しているという形に、基本的にはなっている。直接支援に関しても我々も本当はやりたい部分であるし、今後、地域本部というものが、名前はどうなっていくかわからないが、それが最終的にコミュニティスクールになっていく可能性もあるが、板橋版としてしっかりとした形でちゃんと確保してほしいなと思っている。

例えば、学校のホームページを今、私がつくっている。学校のホームページは先生たちがずっとつくってきたものだが、その分を私がやることによって、ホームページについては、先生は情報だけをくださるだけでいいと。その分、子どもたちにちゃんと向き合ってもらいたいという形だ。

今、学校支援と言っているが、どこまでを手をつけていくかということも、今後は課題になっていくのかなと考えている。

成増小学校は、相当数の事業をやっている。11月からは学習支援、ドリルを使って、子どもたちと学習会をやっている。学習力アップということもやっているし、図書室のほうもやっている。それから、いわゆるゲストティーチャーを招くことも行っている。例えば、南極越冬隊の人が来て南極の話をしたり、二人の年齢を合わせて166歳のおじいちゃん、おばあちゃんがいるのだが、その二人が来て、3年生の書道の導入授業をやっている。そういう形で、さまざまなことをやらせていただいている。もし何かあれば事例を紹介させていただき、逆に、ここで提言したものを少しやってみて、その結果をまた見せるということもできると思うので、使っていただければと考えている。

【廣瀬委員】

平成14年から総合的な学習の時間が始まり、かれこれ2万人ぐらいの小・中学生と総合的な学習の時間でかかわってきた。その中で感じることは、先生たちが本当に忙しくしていらっしゃるということ。先生たちが子どもと向き合う時間がない、なかなかとれない。そういう状況があるというのは聞いていたが、本当に先生たちの忙しさは桁外れな状況である。

その中で、私たちが学校に入るというのは、白鳥委員たちのように一小学校の学校支援ということではなくて、全区的なところで障がい者を伴って入るので、先生との打ち合わせに学校に行き、それから企画書を上げて先生と綿密な打ち合わせをして当日入る。そして先生たちは一参観者になってもいい、私たちに任せてほしい、障がい者に関してはプロだからと。とにかく当事者に合わせること、

要するに当事者の授業をするというところをととても大事にしている。

白鳥委員のように学校の支援も大事、そして全区的に支援することも大事というようなところで、そういうネットワーク会議というのを絶対やっていかないと、インターネットで調べてというのでは、顔も見えない状況で、なかなか連携がとりにくいというところがある。

それと、成功した例というのは、私どもの企画によって、私どもに任せてくださった学校では、私たちのプランに沿って障がい者の発言もあり、振り返りもある。一方、ちょっと言葉は悪いが、先生が介入してスケジュールが狂った場合、非常にぎくしゃくして、子どもたちがただ通り一遍の授業に終わるといふところがある。

それは、例えば先生が地域の私たちに任せられないということもあるのだろう。だからもう少し先生たちと、私たち地域のものとの間でディスカッションが必要で、「こういう到達目標があり、ここまで持っていくので任せてほしい」といふような話し合いをいかにするか。しかし、先生たちの忙しさの中で、それはファクスとかメールでのやりとりというところで、なかなか言葉添えが少なくなってしまうところがある。

子どもたちは、私が聞いた話をするのではなく、障がい当事者を連れていくと非常に真剣に聞く。障害者理解が本当に進んで来た。平成14～16年間は、板橋区教育委員会の地域教育サポートネット事業として行っていたが、3年で打ち切れ、18年度からは、板橋区の障がい者福祉課の障がい者理解促進事業というところに切りかわっている。それも障がい者福祉課のご厚意で、例えば赤羽商業高校は、板橋の子どもたちが6割ぐらい行っているのだから、北区ではあるが行ってもいいということで、本当に幅の広いところで活動させていただいている。今は高校の授業にも入っている。

やはり学校単位の支援のところと、それから全区的に支援する人たちとのネットワーク会議みたいな仕組みづくりができれば、もっと学校支援も、子どもたち支援も進んでいくのかと思う。

【三輪座長】

今のところは横のつながりとか、ネットワーク会議、それから子どもたちへの直接支援という、どちらかという支援する側からの積極的な意見があった。例えば学校側ではいかがか。

【速水委員】

小学校での立場になるが、学校の教科として地域とのかかわりというふうに考えていくと、多くは総合的な学習の絡みであるかと思う。これは、平成23年度から新教育課程に入ってきて、今まで105時間、週3時間の時間割だったのが、70時間に減る。総合的な学習の時間の教科として取り組みが週2時間というようなことになってくる。

総合的な学習で言うと、今、学校での課題として上げられているのは、環境のこと、福祉のこと、キャリアの教育、幼小の連携とか、小中の連携とか、そういったことが課題として上げられており、これを新たに取り入れていくというようなことがある。授業時間数が70時間に減って、さらに課題がふえてきているというのが現状である。どういうふうにカリキュラムを組んでいくのかというのが、それぞれの学校で課せられていることであるし、必修というか、区から言われているような部分で、必修的に入れていかなければならない部分だというふうに思う。

そうすると、大人のほうからあてがわれた学習が優先されてしまうような部分があり、本来的に総合的な学習の、子どもたちが自分たちの学習課題をつかんでいくというような、スタートラインが変わってくる部分もある。そこのところはうまくコーディネートしていかないと、学校としても中身が薄くなってしまふというふうに思っている。

それ以外で地域の方とかかわる部分というのは、先ほど青健のお話もあったが、また町会とか、青少年委員の方々とか、そういうかかわりの要するに教科外でのかかわりだ。寺子屋も含め、そういっ

たかかわりがある。

子どもたちは、それぞれの場面で学ぶ機会というのはあると思うので、またそれぞれのところでどんなふうに取り組むのかというのは、学校として見えてくるところになる。

それから、地域との関連で、学校の教育外のこと、こちらのほうも各種の団体があり、やはり要請があって、子どもたちに声をかけながら参加しているが、すべてに対応できるような状況はどうしてもできない。中には学校に来てもらう寺子屋と、外への活動に学校が参加する部分とあるが、やはり外での活動については学校を挙げてとか、先生方にも参加してもらうとかということがあり、それが多くなればなるほど学校もパンクしてしまうような部分がある。さきほど、ネットワークの話もあったが、その辺を通じて調整ができるといいなというふうには思っている。

【塩野委員】

中学校も今、速水先生からお話があったこととほぼ同じだが、平成24年度から新教育課程で総合的な学習の時間が減る。地域の方の中には、プロ並みの技術・知識を持った方がたくさんいらっしゃる。そういう方たちが学校に来て、いろいろなことを授業で見せたりする、そういうのは総合的な学習時間にやるのだが、そうした時数が減っていく。

教科のほうでも、数学にしても、英語にしても、先生一人よりもその補助についていただくとよい。幸い、学習指導講師というのが教育委員会のほうで認められているので、そういう方々は入ってやっている。もう一つは地域の方で英語なり、数学なりそういうのに力をかけてくれる方がいれば、大変ありがたいなというふうには思っている。

ただ、私が前にやった経験では、保護者の方にいろんな技術・技能を持っている方がいらっしゃったら教えてほしいということで、全校生徒にプリントを持たせて、自推・他推も含めて、ぜひ学校の教育に力をかけてほしいと。返ってきたのは結局1人か2人ということで、データバンクにもならない。そういう状況がある。

【三輪座長】

求めている方向は皆さん共通だと思うが、その手続等も含めてこれから詰めていかなければいけない課題もあるのではないかとということだと思われる。

【田上委員】

皆さんのお話を聞き、先生方のお話も聞いて感じたことだが、私のところ、徳丸地域というには小学校3校、中学校は1校あり、そういう中で私も青健の事業に30年から携わっている。

年に1回、中学校の校長先生、小学校の校長先生、もし校長先生が出席できない場合には副校長が参加していただき、青健の会長を中心にして、各ボランティアでいろんな部署に入っている人たちも役員が参加し、大体120から130名が一堂に学校の体育館に寄って、学校側からの要望や、我々みたいに外で子どもたちと接する人たちの要望を出す。各分野ごとに横のつながりというか、これはありがたく、徳丸の地域は本当によくできているなと思っている。

やはり青少年の健全育成というのは、その地域が大きいので、どこの地域でもその青健が中心になって、横の連絡を取り合ってやっていくのがいいのではないかと。各小学校の校長先生、中学校の校長先生からの意見を出していただいた中で、昔からある伝統芸能なども全部含めて、こういうことだったら、うちの学校に来て、ぜひ子どもたちに見せてほしいとか、そういう声かけがあったからこそ行かれたのであって、ただ単に何のお声かけもなければ、年1回しかない行事をやって終わりになっていた。やはり横の連携というのは青健の事業の中でやっていただくのが、一番まとまれるのかなと私は感じている。

【茂野委員】

私は青健を30年ぐらいやって、会長としては11年目である。今のお話は大変もつともであるが、青健というのは板橋区からある程度の委託金をいただいて事業を行っている。その事業の対象がほとんど小学校、小さい子の事業なので、生涯学習という面から見ると少し偏りがあるのかなと思う。今回のテーマだと、全体もう少し広い「地域が支える板橋」ということになると、なかなか青健の中でまたそういうとりまとめ役をやれというのは、非常に難しいと思う。

今、板橋区がそれについて、もう一つ、1ランク上なのか下なのか分からない。地域会議というのを他のセクションで設けようとしている。私はそこが学校支援地域本部を含めて、すべてその中に入った地域会議というようなものの中で、すべて企業も含め、地域のすべてが含まったその会議が理想かなと思っている。そこのところは青健に言われるとちょっとつらいな思う。

それと今、塩野委員がちょっとおもしろいことを言われたのは、地域の人材、資源のことだが、私はいっぱいいると思っている。定年になった方で、植木などが専門という先生がいて、子どもたちにボランティアで教えてくれるとか、客室乗務員も定年になったり、おやめになった方々が、地域の子どもにボランティアで英語を教えると。お茶とかお花のできる方が、日本の伝統的なものを「放課後子ども教室」で教えようとかという...

資源はいっぱいあるが、それを発掘できない。それを発掘する方法はやっぱり一つの学校でやっていたのではなかなか難しい。区が中心になって、板橋区中のそうした資源の発掘をしたら、ものすごくいいものになると思っているが難しいだろうか。

【茂木委員】

例えば学校支援本部は学校単位だろうし、青健は18に分れているだろうし、区の中で今、お話しいただいたような地域関係を新たに持とうとする。いろんな長い間のところで、さまざまな施策が単位ごとになってくる。ネットワークをつくらなきゃいけないのは皆さんわかっているが、この中心はどこになるのかというのはわからなくて、ある意味では、まだ区でも結論は出せてないだろうと思う。

私が言うと、さまざまな立場の方から総反論を受けることになるが、先ほど校長先生がおっしゃったように、学校でいうと、ある意味で教科の部分というのがあってではないか。これは今までも学習指導要領に基づいて、何は何時間で、ここまで教えなきゃいけないというのが一方でありながら、学校にはさっき話のように、例えば環境教育をやってほしいとか、極端に言えば税の教育をやってほしいとか、何から何まで教科の中に突っ込まれるわけだ。突っ込んで来る人たちはそれぞれ熱い思いを持っている。でも学校はパンクしてしまう。そこのところが非常に難しいところだ。

教育委員会には、学校地域連携担当課長という担当が本年度からでき、「放課後子ども教室」とか「あいキッズ」などの事業などをやっているが、そこの所管の中で、「教育人材バンク」というものもある。登録はされているが、利用はされない。そこはもしかするとひと工夫が足りずに、ただ登録して、ただ学校は授業という中で引っ張ってきたわけだ。そこのところをうまくきちっとコーディネートしてあげなくてはいけない。仲介役がまだできてないのだが、そういうことも学校に入るという意味で、ボランティア、授業の中でやっていただくという一定の枠の中でやるときのやり方とか、そういうものもきちっと本当は教育委員会の役割としてつくっていかなければいけない。

それと逆に、そういう方々がやっているところに行くときは、学校としての考え方を先生方に知っていただかなくちゃいけない、そういう橋渡しをこれからやっていかなくちゃいけないような状況にあるのだろう。環境はできているんだけど、そこをどういうふうに一歩一段上に進むのかを考えないといけないというような気持ちでおり、今回、私どもはこの懇談会に寄せる期待の中にはそういうものも何かヒントが出てくればありがたいと。最終的には教育委員会が、その辺の仕組みをつくっ

ていかなければいけないというふうに思っている。

【白鳥委員】

2つほど。まず青健批判ということではなく聞いていただきたいのだが、青健に関してはとてもすばらしいと思うが、例えば小学校でいうと、ある小学校では2つの青健に入っていると。学校区と青健の区域とが違うという部分があり、そこをうまくできるのであれば、青健とのかかわり合いというのはすごくすばらしいものになると考える。

ただ小学校区の中で、例えば2つ、3つ、多いところは3つとか4つの青健の区域が含まれているというところもあると思うが、そういう形での区割というのが一つは弊害があるのではないのかなというのを感じている。

青健はどちらかというと町会の区割りに近いと認識しているが、小学校とか中学校という、例えば子どもたちを対象にするのであれば、もうちょっと学校区に近い、中学校区という大きな区割りでやっていただくような方法でいけば、今言ったような連絡という話ももっとスムーズに行くのかと。そこで連絡会議をしていけば問題ないと思うが、多数連絡会議があって、あっちにも、こっちにも、そっちにもとなると、それは連絡会議でもなんでもなくなってしまっているので、一本化できれば一番いいのかなという感じがしている。

それからもう一つ、総合学習という話であったが、意外とボランティアの方が授業にかかわっていくというのは、学習ボランティアも含めて多くあるのではないかと考えている。今、予算もついで大学生などが入られて、授業のサポートをしてくれている。それ以外にも地域の人もそこに入っていて、小学校1年生の子どもたちを見てあげる。例えば走り回っている子をだめだよって言うだけのサポートでもいいのではないか。授業にどこまで入り込むかというのは一番大事なのかと思う。

実は先日、小平市の小平第六小学校にコミュニティスクールの視察に行って、そのとき言われたことは、小学校の教科書の目次を見てごらんさいと。見ると、意外にボランティアとしても見られそうだなという感じがした。私もその辺はまだやってないのだが、コーディネーターとしてもうちょっとできることがあるよというのを持っていて、校長先生や副校長先生とのコミュニケーションの中で、総合学習だけではなく、入れる部分があると考えている。その辺をもう少し詰めていけばと考えている。

【三輪座長】

放課後の課外活動や総合学習だけではなくて、教科の授業にも入っていけるようにするという。それは今後の課題として議論ができればいいと思う。

【與芝委員】

課題のところに、「学校に必要な支援」と書いてあり、ちょっと具体的には思いつかないのだが、学校側からこういうことをしてほしいというようなものが、具体的に何か見えてきているのかどうかということと、それから、今、絵本の読み聞かせなどのボランティアがかなりふえていると思うが、そういうことについて学校側から要望など具体的にあるのかどうかかわからないので、何かご存じであれば教えていただきたい。

【白鳥委員】

私は現在、毎週水曜日に成増小学校で朝の9時から5時まで勤務をしている。ほとんど勤務のような状態である。毎週行って、そんなにやることあるのかということ、意外とあって、先生との協議をしたり、連絡したりということがあり、その中で一番多いのは先生たちの今、現実に困っていることを、まとめて上げていくこと。意外と時間もないので、話し合いの中でコミュニケーションをしながら、

例えばお茶を飲みながら、休み時間にちょっと立ち話をしながらという形で、先生からの要望を全部吸い上げて、学校長のほうに、今こんな要望が出ていると伝える。最終的には、それじゃこれをやってほしいなというのは出てくる。相当数出ている。

それはいろんなことが本当にいっぱいあって、子どもたちに関係ないようなことでも、例えば植木の手入れとか、学校の周りでもいろんなことがあるので、やることはあるのではないかと思う。

それから、読み聞かせに関しては相当あると思う。学校によっていろいろやられていて、学校ごとに違いはあると思うが、現状はほとんど、例えば保護者等に手紙を配って、やられる方はいらっやいませんかとかたちで募っている。その後、地域ということになるとちょっと難しくなっているのは現状だ。というのは、地域にどう呼びかけるか、ただ回覧板で回すとか、そういうところまではやはり先生たちはまだ気が回ってないというところがある。だから、そういうことは、コーディネーター的な仕事をされている方が、それなら地域へ僕が回覧板で回すよという形をとれるということも必要なのかなと思う。

現状はできる範囲ということで、十分なボランティアの方々は集まっていないのではないかと思う。読み聞かせも時間自体が短く、どこの時間でその読み聞かせをするかという、朝のほんの5分とか10分の時間だけ、学校の終わりの時間を使ってとか。いろんなやり方があると思うが限られた短い時間なので、毎日やっていくというような、いわゆる習慣性をつけたかたちでやるには、ちょっとボランティアの数は少ないのかと思う。そういうことでも地域の方々へのご協力を願うということがあるのではないかと思う。

意外と学校からの要請というのは、学習に限らず多数ある。

【茂木委員】

読書活動のことについてちょっとお話ししておきたい。実は「学び支援プラン」の中でも読書活動も重点施策になっており、今、読書活動の推進計画というのをちょうどつくっている。もうすぐ中間報告が予定されているという状況である。

読み聞かせの部分について言うと、現実は今、地域図書館の司書等が学校とか、保育園、学童クラブ、児童館などに行っている。学校に行っている量はそんなに多くない。「学び支援プラン」の中では、地域の読書推進団体を育成しようじゃないかというのが、大きな事になっていると思う。まだ計画はできていないが、おそらく読書推進の計画の中では、そういう方々を育成して、必要などころに行っていただくというようなことも入っていくものと思っている。

今、実際それをやっているのは、地域図書館がボランティアとして読み聞かせができる人を育成しているという状況である。これをもう少しきちっとした形で、図書館が育成してもいいのだが、学校と仲立ちをどういうふうにするかという部分をしっかりやっついていかないと。

学校図書室について言うと、データベース化を図り、司書を配置してやっついていこうとやっているが、お金がかかることなのでなかなかできない。極端な話をすると白鳥委員の話とも関連して、「学校図書室の本だって整理してほしい。時間がないんだ」ということもある。それこそ週に何回か本の好きな地域の人がその学校に行って、学校図書を整理してくれて、みんなこれ読んでいるよっていうことを示してくれるようなことだって、大変なことだ。

学校にはそういうような読書推進は本当に必要だと思っているし、子どもたちの育成、極端に言うと学力にまで影響する大変なものだと思っているので、きちっとした仕組みと人を位置づけたいということに一生懸命な状況である。

【児玉委員】

生涯学習というところから見て、先ほどの生涯学習課長から説明のあった3つの課題の中でも、2

番目の課題に関連して、今の議論を伺っていると、地域の大人たちがどう学校を支援するかということでの議論で、もちろんそれはそのとおりだと思うのだが、一つ生涯学習推進懇談会で議論するのであるならば、互惠性というか、支援活動を通じて大人たちも自分たちの学びが深まっていく、あるいは学び合いの活動がより広がっていくという、そういう観点を、一方に持っていきたいと思う。

実際のところ、子どもたちとかかわることで、大人たちも学ぶことができた。あるいはそこに手応えを感じたというようなことが実際たくさんあると思う。その視点を一つ持ちながらいけたらいいと部分がある。

そのときに、先ほど「人材バンク」の話があったが、私は、よその区の事例もいろいろ聞いたことがあり、ほぼどこも成功してない。バンクはつくるけれども要請がないとか、あるいは募集をしても先ほどの校長先生の話のように、学校のほうで保護者を通じて要請しても、登録される方がほとんどいない。このことは、一つにはそれは「点」だからだと思う。つまり個人と直接学校、あるいは、個人と人材バンクということで、さまざまな能力や技能を持っていらっしゃる方がいても、その方が個人としてポツンといて、ここから学校につながろうとするということは、すごく難しいことではないかと思う。

だからこそ、例えばその方が自分が今まで学んできたことを生かして、地域で新たなサークルなどをつくって学び、仲間をつくっていきこうと。それを支援する形として生涯学習課というのもあると思うし、社会教育会館という施設もあると思う。

そこが「点」から「面」になったときに、ネットワークがまたつくられていけるのではないか。そこから外に、学校にという動きが出てくると思うので、そういう意味では先ほどネットワークの話もあったが、どうやって「面」をつくっていくのかということを考えていく必要があると感じた。

あともう1点、先ほど白鳥委員がおっしゃっていたが、学校支援というときに、先生の支援を通じて間接的に子どもたちの学びを支援するというのは、私もとても共感した。最初の自己紹介で申し上げたが、私は、廣瀬委員の学習推進センターで、PTAの方や実際の教員の方、それから地域のさまざまな団体の方をそれぞれにお呼びして、今、学校を支援していくというときに、どういうことが求められているのかにつき、ヒアリングを何回かやったことがあり、それに参加させていただいた。

学校現場の先生方にお話を聞く機会があった。それで本当に学校の先生は大変だなということを実感したわけだが、その中で何が必要とされているのかということ、3つのことがあるというふうに私は聞き取った。

1つはやはり、校長先生方お二人からもお話があったように、総合的な学習の時間が減る。その中で環境だ、福祉だ、キャリア教育だと、そういうものをどんどんやっていきなさいということがある。総合的な学習の時間というのは、教科横断的なことをやらなければいけないということと、それからやはり廣瀬委員がおっしゃったように、さまざまな当事者の方と子どもたちが出会うということも非常に必要になる。当事者と出会う中で、これも速水先生がおっしゃってくださったように、大人側からあてがわれた課題だと総合的な学習ではなくなってしまうと。子どもたちがその中から学習課題をみつけていって、自分たちで追求していけるようになるというところが総合的な学習の時間のねらいだと思うので、その部分でいうと、やはり今まで教科だけをやってきた学校の先生ではなかなか担い切れない点が多いと。そこをやっぱり地域の方たちの力をおかりしたいということであった。

それと、もう一つは、やっぱり学力の補助。この部分は実はその住み分けが必要なんではないかという気がする。ここは実は先ほどの「点」と「面」で言うと、むしろ「点」のほうがいい。今、現にやっていたらっしゃる大学生の方が、放課後とか土曜日とかを利用して学習補助をしていただくとか、そういう住み分けをしていくという、そういうことが必要になってくる。

そうした側面からのサポートをしていくことによって、軸になるのは、やはり学校の先生が、ご自身の本来持っている授業をよりよくしていくこと、改善していけること、「学び支援プラン」にもあるように、子どもたち一人一人と向き合うことが、授業の中でしっかりできるような状況を、どういうふうにする環境をつくって

いくかが、私は一番大事なような気がしている。

私自身はあまり具体的な実践はそれほどやっていないけれども、そこを軸にして考えていきたいと思った。

【新関副座長】

先ほどからいろいろお話を聞き、特に自分がやっているところとかかわりがあることを含めて、少し話をさせていただきたい。

先ほども茂木委員から、例えば人材バンクの活用というのがうまくいかない、いけばいいんだけどもという話だったが、実際、実はそれも含めてぜひ利用させてもらいたいと思っている。昨年度板橋区と共催で環境関係の講座をさせていただいた。その際にちょっとご無理を言って、これからずっと環境教育を継続していただくというのを目標にして、受講者に人材バンクのご案内をし、登録への道をつけていただいたという経緯がある。

昨年度10月から11月にかけて8回、講座をさせていただいて、板橋区の参加者に認定証を出させてもらった。その後、人材バンクにどれだけ登録していただいたかわからないが、恐らくだが、その後フォローアップという話がなくて、そのまま立ち切れになっているという活動をしてしまっている。

できればそれをきっかけにしてというか、それをスタートにして継続してずっと勉強していける。先ほどの人材バンクにつないでいって、自信を持って学校に入ってもらいたいということを希望としてやっていて、その後の仕組みができておらず、やりっ放しで終わっている。そういう意味では先ほどの人材育成というところで、特に環境などは地域でいろいろな環境活動をされている方、もしくは公園をきれいにしていたりとか、普通の方々が直接活動しているので、「公園は大事に使おうね」というような話とつながっていくだけでも、環境教育というものの機会になっていくのではないかと実は思っている。

自分には得意なところがないから学校には入れないよというような感じの方がいらしても、そうではなくて何かのかたちで参加できるようなことも標榜してやり始めてはいる。

これは、私の学科単独のことだったので、うまく横のつながりというか、それを継続して努力して勉強につなげるとか、そういうふうな場所というのがあると、非常に望ましいのだろうなというのを今感じているところである。

また、情報教育の関係で大原社会教育会館のIT関係のボランティアの方々と継続的にやってきた部分がある。結構、皆さんがアイデアを出してくださって、自分たちの学びと、子どもたちとの学び合いというのをどうつなげていくかという動きが出てきている状況がある。

こうした活動は、横のつながりと、継続して学ぶ場所ができると、うまくいくチャンスがふえてくるのではないかという感じがしている。

【三輪座長】

横のつながりをどうするか、人材バンクも含めて議論が出たと思うし、学校の支援という場合に、放課後の課外活動があったり、図書ボランティアもあったり、さらには総合学習をどういうふうに支援するかということもあり、さらには学力向上ということで授業にもどうかかわっていくかという議論があったと思う。それから、支援をするだけではなくて、支援をする大人たちがどういうふうに育っていくかが大事だということもあった。

僭越ながら、あと1点だけ私の体験をつけ加えて、私も杉並区のほうで学校支援地域本部や学校評議員にもかかわっているが、正直言って行政の側がややこしいという印象を受けたことがある。学校支援地域本部は文部科学省の生涯学習政策局で、学校評議員のほうは文部科学省の初等中等教育局である。また課外活動のほうも文部科学省系統もおりてくれば、厚生労働省のほうもおりてきたりとか、同じく「学校支援」と言いながら、何か縦割りの弊害が正直言ってあるような気がしている。単に地域の人たちの横のネットワークだけじゃなくて、どうやって行政の側が、上からのそのままでなく、教育委員会の中で例えば学校教育の担当と生涯学習課がさらに緊密な連携をとるなど、そういうことも大事な役割だと思うので、この中で少しずつ議論ができればと思う。よろしくお願ひしたい。

また、次回以降も今回のような積極的な発言をお願ひしたい。

【生涯学習課長】

今回は12月21日、月曜日の午前10時から、会場はこちらの教育委員会室を予定している。よろしくお願ひしたい。

それでは、本日の会議を終了させていただく。